

TOBU



ニュータイプ
キャラクターは初め
造形が安定
していな
ことが多い。
技法が
確立する
までの



試行錯誤が
仮面ライダーの
頭部に
見てとれる。
初代
ウルトラ
マンも
そう
だった。

仮面ライダーの
頭部は上下に
はずれる
ツースタイル。



仮面ライダーの
モデルがイゴであることは
有名だが、いくつものデザインの中から
当時5才だった原作者石森章太郎の
長男丈君が選んだのが、イゴをモデルにした
キャラクターだったという訳

仮面ライダーの
首のマフラーは
羽をイメージした
ものだと言っている。



金沢市俵大池周辺のトンボ相

澤 田 博

1 はじめに

俵大池は標高200m、金沢市俵町地内にあり、面積はおおよそ20,000㎡の中規模の池で、農業用の溜池として利用されている。この池のトンボ相について、一年間調査する機会を得たので、その結果について報告する。

調査は、1994年6月3日から、1995年5月25日まで行い、29種のトンボを観察することができたが、特筆すべきものはなかった。この数は、あまり多くないが、流水域がないこと、水生植物が乏しいこと、そして、1994年11月に駆除したため個体数は減少したが、この池にオオクチバス(ブラックバス)が繁殖していることによると考えられる。

2 俵大池の環境と見られるトンボ

(1) 大池の水面

この池には、一部にヒメガマの生えている部分があるほかは、水生植物はほとんどなく、以前はヒシが水面の半分をおおっていたということであるが、現在は、わずかに見られる程度である。

池の水面には、ギンヤンマ、オオヤマトンボ、コシアキトンボが回遊しており、7月から8月中旬にはウチワヤンマも普通に見られる。

ヒメガマのある部分では、アジイトトンボが多く、隣接した水田で多数の交尾個体が観察され、コフキトンボも多い。クロイトトンボも池の周囲の下草でいつもみることができた。

(2) 周囲の水田

周囲の水田では、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ヨツボシトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボを主とするアカネ類が多く見られた。

(3) 休耕田

常に水のある休耕田には、キイトトンボ、ハッチョウトンボが多数みられ、ヨツボシトンボ、オオシオカラトンボ、ヒメアカネなどのアカネ類もみられるが、この休耕田は年々乾燥してきており、ハッチョウトンボがいつまでみることができるのかわからない状況にある。

(4) 池の周囲の林床

池の周囲はアベマキ、コナラ林で、林床にはオオアオイトトンボ、モノサシトンボがひっそりと生息しており、個体数も多い。春には、オオカワトンボ、ニシカワトンボ、やや遅れてハグロトンボがみられ、ハグロトンボは、個体数も少なくない。

表－１．俵大池周辺のトンボの季節変化

種 名	1995年	1994年							
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
	10 25	3 22	5 10 18	16 30	5 21	7 26	8 24	8 日	
キイトトンボ		○	○	○	○	○			
アジアイトトンボ				○	○				
クロイトトンボ	○	○	○	○	○	○			
オオイトトンボ				○					
モノサシトンボ		○	○	○	○	○			
オオアオイトトンボ			○	○	○	○	○		
オオカワトンボ	○	○							
ニシカワトンボ	○	○							
ハグロトンボ		○	○	○	○				
ヤマサナエ	○	○	○	○					
コサナエ	○	○	○	○					
ウチワヤンマ			○	○	○				
オニヤンマ			○	○	○	○	○		
ギンヤンマ			○	○	○	○	○		
オオヤマトンボ		○	○	○	○	○			
シオヤトンボ	○	○	○						
シオカラトンボ		○	○	○	○	○	○		
オオシオカラトンボ			○	○	○	○	○		
ヨツボシトンボ	○	○	○	○					
ハッチョウトンボ		○	○	○	○				
コフキトンボ			○	○	○				
ショウジョウトンボ		○	○	○					
ナツアカネ				○	○	○	○		
アキアカネ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マユタテアカネ			○	○	○	○	○		
ヒメアカネ			○	○	○	○	○		
ノシメトンボ		○	○	○	○	○	○	○	
コノシメトンボ						○	○	○	
コシアキトンボ		○	○	○	○				

(注)○印は、観察された日

(5) その他

その他、夏にはオニヤンマが池の周囲や水田地帯を行き来し、数は少ないがオオイトトンボ、ヤマサナエ、コサナエなども飛来を確認した。

3 俵大池のトンボの季節変動

調査の開始が6月3日とやや遅かったが、翌年の5月25日までのべ16回の現地調査を行い、そのつど確認された種類を記録するように努めた。その間に記録された種と記録された日を表にまとめた(表-1)。

表の中でカワトンボやサナエなど流水性のものや、ショウジョウトンボ、オオイトトンボなど浅い池に繁殖するものは、飛来個体と考えられる。

4 アカネ類について

アキアカネは、俵大池で最も長期間見られるトンボで、年はまたがるものの5月25日から12月8日まで確認されたが、7月に一時姿の見られない期間があった。10月、11月には、アキアカネが爆発的に増加し、この地区で発生する個体よりはるかに多い個体が最後までこの地区に留まるようである。

ノシメトンボは、年間を通じて多く、マユタテアカネについては、雌のツマグロ型も普通に見られる。

アカネ類はわずかな環境の差で、観察される個体数に差があるようで、俵大池周辺では非常に少ないナツアカネ、コノシメトンボもそれほど離れていないキゴ山周辺では少なくない。

また、野々市町など金沢市南部の平地に多いミヤマアカネは、医王山も含めてこの地区には、極めて稀であり、県内の分布の状況が注目される場所である。

観察された個体数ではおおよそ、アキアカネ>ノシメトンボ>マユタテアカネ>ヒメアカネ≧ナツアカネ=コノシメトンボの順である。

その他、キゴ山ではリスアカネの記録があり、俵大池周辺でも採集される可能性がある。

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

西表島、石垣島で採集した蝶

矢田新平・石川卓弥

1994年10月19日～23日、沖縄県八重山郡竹富町(西表島)および沖縄県石垣市(石垣島)で蝶を採集する機会を得た。この間、採集した種類数は(表-1)に示した54種類で、このうち比較的珍しいと思われる種について報告する。

石川卓弥は本会のメンバーではないが、家が近いこともあって一緒に採集に出かける事

が多く、今回も蝶屋ではない氏を無理に連れだしたものである。氏は今後が期待される新進気鋭の22歳。

1 タイワンシロチョウ

1994年10月23日 石垣市(石垣島)米原 1 ♀ 矢田新平採集

2 ウスアオオナガウラナミシジミ

1994年10月23日 石垣市(石垣島)米原 1 ♂ 矢田新平採集

3 ウスコモンマダラ

1994年10月19日 八重山郡竹富町(西表島)南風見田 8 ♂ 1 ♀ 矢田新平・
石川卓弥採集

4 キタテハ

1994年10月22日 石垣市(石垣島)オモト岳 1 ♂ 矢田新平採集

5 メスアカムラサキ

1994年10月19日 八重山郡竹富町(西表島)南風見田 1 ♀ 矢田新平採集

6 リュウキュウムラサキ

1994年10月19日 八重山郡竹富町(西表島)豊原 1 ♀(台湾型) 矢田新平採集

1994年10月21日 石垣市(石垣島)バンナ岳 1 ♂(フィリピン型) 石川卓弥採集

1994年10月22日 石垣市(石垣島)オモト岳 1 ♂(大陸型) 矢田新平採集

1994年10月22日 石垣市(石垣島)オモト岳 1 ♂(フィリピンか台湾型) 矢田新平採集

1994年10月22日 石垣市(石垣島)米原 1 ♂(フィリピン型) 矢田新平採集

表-1. 西表島、石垣島で採集した蝶

	西 表 島 10月19日～21日	石 垣 島 10月21日～23日	合 計 10月19日～23日
アゲハチョウ科	5	5	7
シロチョウ科	3	7	7
シジミチョウ科	5	10	10
テングチョウ科	1	—	1
マダラチョウ科	4	3	5
タテハチョウ科	7	8	10
ジャノメチョウ科	2	3	3
セセリチョウ科	7	10	11
合 計 (種)	34	46	54

《やた しんぺい 〒923 石川県小松市上小松町丙192-8》

《いしかわ たくや 〒923 石川県小松市四丁町に84》

石 川 県 の ジャ ノ メ チ ョ ウ 4

松 井 正 人

石川県で記録されているジャノメチョウについて、前回(NO.115 AUG.1995)に引き続き紹介を続けるが、今回で15種すべての紹介が終了することになった。

データはできる限り新しいものを採用し、メッシュ図は、石川県をカバーする国土地理院発行の5万分の1の地形図25枚をそれぞれ16等分し、そのメッシュ中に分布地が1ヵ所でもあれば、そのメッシュを「■」として表し、無ければ「□」として表した。文献ナンバーは、1000番台は石川むしの会の「とっくりばち」、2000番台は百万石蝶談会の「翔」、下3桁はその号数を示した。その1～その4に利用した9000番台の文献については、今回一括して掲載した。

13 ヒメジャノメ

平地から山地にかけ県内全域に広く分布し、林縁等で良く見かける。

文 献
1034

年 9月15日	珠州市山伏山		山本順子
1989年10月10日	珠州市馬渡	1 頭目撃	松井正人
1993年 9月 7日	門前町猿山	2 頭目撃	松井正人
1991年 6月 9日	門前町谷口	1 頭目撃	松井正人
1993年 9月 7日	門前町池田	2 頭目撃	松井正人
1993年 9月11日	中島町唐島	3 頭目撃	松井正人
1993年 8月29日	鹿島町石動山	1 ♂目撃	松井正人
1991年 5月 3日	七尾市藤平谷内	1 幼目撃	松井正人
1990年 8月18日	富来町荒屋	1 ♀目撃	松井正人
1989年 9月 9日	富来町高爪山	1 ♂ 1 ♀目撃	松井正人
1993年 9月 7日	富来町鹿頭	5 頭目撃	松井正人
1982年 5月 8日	志賀町雨谷	1 頭目撃	松井正人
1990年 8月18日	羽咋市一ノ宮気多神社	1 ♂目撃	松井正人
1989年 6月14日	羽咋市国立青年の家	1 ♂目撃	松井正人
1992年 9月15日	羽咋市次場	1 頭目撃	松井正人
1989年 9月16日	志雄町敷波	1 ♂ 1 ♀目撃	松井正人
1992年 5月 3日	押水町竹生野	1 幼	松井正人
1992年 6月21日	押水町北川尻	多数目撃	松井正人
1992年 8月15日	宇ノ気町指江	4 頭目撃	松井正人
1983年 7月 3日	津幡町甲斐崎山	2 頭目撃	松井正人
1980年 9月21日	津幡町矢田	1 頭目撃	松井正人
1992年 8月15日	津幡町領家	多数目撃	松井正人
1991年10月 5日	内灘町西荒屋	1 ♂目撃	松井正人
1961年 8月29日	金沢市医王山	♂♀	桜井正喜
1992年 5月 5日	金沢市曲子原	1 幼	松井正人
1971年 9月12日	金沢市三口新	1 ♀	松井正人
1972年 8月23日	金沢市三輪山	1 頭目撃	松井正人
1991年10月10日	金沢市千田八坂神社	1 ♀目撃	松井正人
1985年 6月16日	金沢市浅丘	1 頭目撃	松井正人
1970年 6月20日	金沢市大桑	1 頭	松井正人

9052

文 献

1989年 9月16日	金沢市大場	1 ♀ 目撃	松井正人	
1978年 9月17日	金沢市大平沢	2 頭目撃	松井正人	
1981年 5月13日	金沢市湯涌荒屋	1 幼目撃	松井正人	
1981年 5月24日	金沢市北袋	1 幼	嵯峨井淳郎	
1971年 5月22日	金沢市涌波	1 頭目撃	松井正人	
1984年 8月26日	金沢市甥杉	1 頭	澤田 博	
1992年 6月27日	野々市町末松	3 頭目撃	松井正人	
1988年 9月 2日	河内村内尾千丈温泉	1 ♀	中山佐一郎	9127
1979年 5月20日	河内村板尾	1 頭	吉村久貴	2017
1988年 5月14日	吉野谷村下吉野	1 幼採集 2 幼目撃	松井正人	
1983年 5月29日	尾口村鷲走岳	2 頭目撃	松井正人	
1982年 8月 7日	寺井町粟生	1 ♂ 1 ♀	中山佐一郎	9104
1986年 6月24日	辰口町湯屋	1 頭	竹谷宏二	9124
1980年 8月25日	辰口町鍋谷	1 ♀	中山佐一郎	9024
1981年 6月19日	辰口町仏大寺	1 ♂	中山佐一郎	9104
1989年 8月11日	小松市粟津	1 ♀	中山佐一郎	9127
1988年 6月 5日	小松市鞍掛山	1 ♂	中山佐一郎	9106
1987年 5月19日	小松市塩原	1 ♂	中山佐一郎	9105
1983年 5月27日	小松市河田	1 ♂	中山佐一郎	9104
1985年 6月16日	小松市岩淵	1 ♀	中山佐一郎	9105
1980年 8月 5日	小松市月津大本の池	1 ♂	中山佐一郎	9104
1985年 6月20日	小松市原	1 ♀	中山佐一郎	9105
1981年 5月17日	小松市五国寺	2 幼	嵯峨井淳郎	
1987年 9月 1日	小松市江指	1 ♀	中山佐一郎	9105
1978年10月23日	小松市三谷	1 ♂	中山佐一郎	9024
1980年 8月29日	小松市四丁	1 ♂	中山佐一郎	9024
1992年 9月 6日	小松市小山田	1 頭目撃	松井正人	
1977年 9月 2日	小松市松任	1 頭	中山佐一郎	9024
1980年 8月 6日	小松市西俣	1 頭	中山佐一郎	9024
1987年 8月 8日	小松市大杉上	1 ♀	中山佐一郎	9105
1983年 8月21日	小松市大倉岳	1 ♀	中山佐一郎	9104
1986年 9月24日	小松市中峠	1 ♀	中山佐一郎	9105
1992年 9月 6日	小松市長谷	2 頭目撃	松井正人	
1984年 9月14日	小松市天神梅林院	1 ♂	中山佐一郎	9104
1983年 8月24日	小松市東山	2 ♂ 1 ♀	中山佐一郎	9104
1983年 8月22日	小松市動山	1 ♂	中山佐一郎	9104
1977年 7月 6日	小松市日末	1 頭	中山佐一郎	9024
1987年 6月22日	小松市波佐羅	1 ♂	中山佐一郎	9105
1977年 8月11日	小松市馬場	1 ♀	中山佐一郎	9024
1980年 6月14日	小松市麦口	1 ♂	中山佐一郎	9024
1983年 8月24日	小松市麻昌	1 ♂	中山佐一郎	9104
1980年 8月28日	小松市木場	1 頭	中山佐一郎	9024
1980年 8月 7日	小松市木場湯	1 ♂ 2 ♀	中山佐一郎	9024
1981年 8月 6日	小松市遊泉寺	1 ♂	中山佐一郎	9104
1982年 6月18日	小松市嵐	1 ♂	中山佐一郎	9104
1989年 5月18日	小松市里川	1 ♂	中山佐一郎	9127
1992年 5月10日	小松市蓮代寺	2 幼目撃	松井正人	
1985年 9月20日	山中町鶴ヶ滝	1 幼目撃	松井正人	

14 ウスイロコノマチョウ

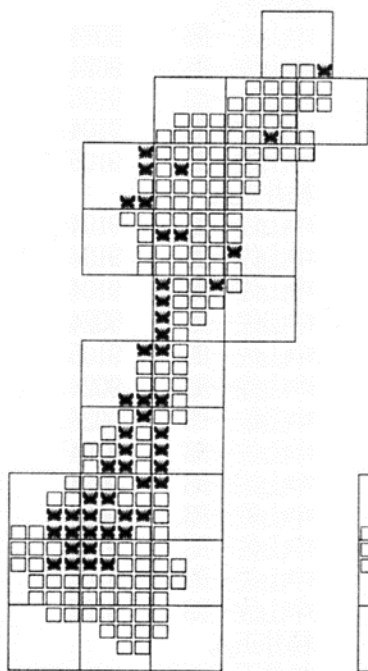
迷蝶。1991年は大型台風が県内を通過し、その後平野部にボツンとある各地の神社林で観察された。

1993年 8月28日	富来町鹿頭	1 頭目撃	松井正人	文 献
1991年10月12日	羽咋市次場神社	1 ♀採集 1 頭目撃	松井正人	
1991年10月26日	志雄町出浜	1 頭目撃	松井正人	
1991年10月26日	押水町免田	1 頭	松井正人	
1991年10月12日	宇ノ気町指江八幡神社	1 ♂採集 1 頭目撃	松井正人	1055
1987年 8月25日	金沢市栗崎	1 ♀	入場 登	
1993年 8月10日	金沢市神谷内	1 ♀	入場 登	2107
1991年10月 5日	金沢市千田八坂神社	2 ♂	松井正人	
1991年10月12日	金沢市千木	1 ♂	松井正人	9101
1990年 9月24日	松任市三浦	1 頭目撃	竹谷宏二	
1990年 9月13日	小松市中海	1 頭	東 祥弘	

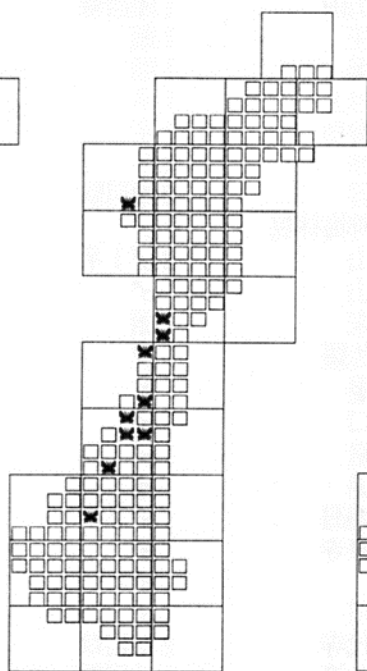
15 クロコノマチョウ

迷蝶。1982年のものは松くい虫誘引剤（アルファピネン・エタノール）の粘着板で捕獲され、1991年のものは台風後に神社林で観察された。

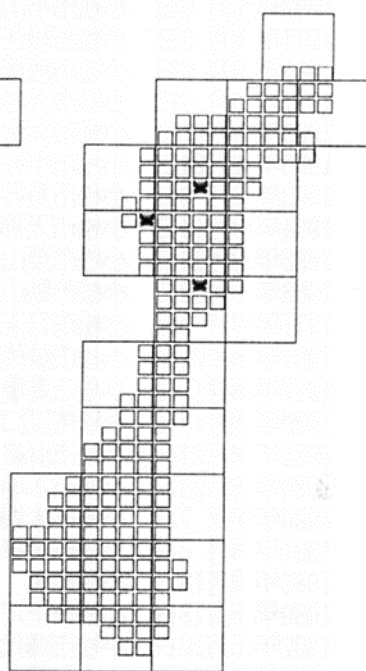
1982年 7月23日	穴水町乙ヶ崎	1 ♀	松枝 章	1048	文 献
1964年 8月30日	鹿島町芹川	1 ♀	尾田良知	1048	
1991年10月24日	富来町八幡座主	1 ♀	松井正人		



ヒメジャノメ



ウスイロコノマチョウ



クロコノマチョウ

《その1～その4に利用した文献》

- 9001) 田中 蕃・若林守男, 1963. 加賀白山採集記. 佳香蝶, 14(52):90-96.
 9002) 坂下 茂, 1976. 白山の動植物(蝶類). 早稲田生物, (18):41-45.
 9015) 武藤 明, 1958. 石川県の蝶. 新昆虫, 11(3):39-40.
 9024) 中山佐一郎, 1981. 小松市とその周辺のチョウについて. 小松市立博物館研究紀要, (18):1-26.
 9026) 中山佐一郎, 1985. 里川・仏大寺方面のトンボ・チョウについて.
 小松市立博物館研究紀要, (22):11-19.
 9041) 山本順子, 1956. 石川県産の蝶 1 1 3 種になる. 新昆虫, 9(12):41-42.
 9052) 桜井正喜, 1962. 医王山の昆虫. コピー:1-6.
 9054) 日吉芳朗, 1969. 石川県旧輪島町周辺の蝶類について. 輪島高等学校紀要, (3):53-59.
 9065) 中山佐一郎, 1988. 小松市とその周辺のチョウについて(第5報).
 小松市立博物館研究紀要, (25):1-4.
 9101) 北陸中日新聞, 1990. 南国の珍チョウ小松で発見. 9月26日日刊.
 9104) 小松市立博物館, 1987. 小松市博物館所蔵品目録, (4):37-57.
 9105) 小松市立博物館, 1988. 所蔵品目録(追加分). 小松市立博物館研究紀要, (25):66-70.
 9106) 小松市立博物館, 1989. 所蔵品目録(追加分). 小松市立博物館研究紀要, (26):49.
 9127) 小松市立博物館, 1991. 所蔵品目録(追加分). 小松市立博物館研究紀要, (28):61-63.
 9128) 中山佐一郎, 1992. 小松市とその周辺のチョウについて. 小松市立博物館研究紀要, (29):1-24.
 9135) 小松市立博物館, 1994. 所蔵品追加分(昆虫類). 小松市立博物館研究紀要, (31):60.
 9139) 宮野昭彦, 1990. 高地性ゴマシジミー大長山一. だんだらちょう, 9(24):13-19.
 9144) 中野 純, 1991. 日本産蝶類採集日誌(1989. 5. 22～7. 1). ひゃくとりむし, (87):8-9.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東 8 7 1 - 1 5》

金沢市西念でクマゼミの声を聞く

澤 田 博

金沢市西念の駅西大通り(通称50m道路)の中央分離帯にはケヤキの木と、低木としてトベラが植えられており、下は芝生となっている。ここから多数のアブラゼミが発生し、トベラの葉やケヤキの幹に抜け殻がたくさん付いている。

この中央分離帯でクマゼミの鳴き声を聞いたので報告する。その後、注意しているがそれっきり鳴き声は聞こえない。

1995年8月21日 金沢市西念 クマゼミ 1♂(声) 澤田 博

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引 1 - 1 6 - 1 1》

北 陸 の 蝶 2 題

牧 原 悟 郎

東京から松任に移って4年、北陸は初めての地、夢中になって蝶を追い、気付いた点を報告します。記録は全て筆者自身のものです。

1) ツマグロヒョウモン

1993年6月 1日	金沢市倉ケ岳山頂	1♂採集
1993年8月 6日	金沢市倉ケ岳山頂	1♂目撃
1993年8月24日	鶴来町倉ケ岳バボアンテナ付近草原	1♂目撃
1994年7月26日	金沢市倉ケ岳山頂(灌木葉上)	1♂採集
1995年7月26日	金沢市倉ケ岳山頂	1♂採集
1995年7月29日	金沢市倉ケ岳山頂	1♂目撃

倉ケ岳の山頂は、裸地の広場があって周囲はコナラ、マルバマンサク、ヤマボウシ等の灌木に囲まれ、飛来し易い地形のようです。本種は丁度早春のヒオドシチョウと習性が似ているようで、虻、蜂、蜻蛉、蝶が近づくと挑んで追い払っていました。6頭共極めて新鮮な個体で、灌木葉上の個体以外は、全て裸地上に静止していたのですが、非常に敏感で、採集及び観察には慎重を要しました。1995年は、積雪が多かったのと天候不順のため、ヒョウモン類が割と少なかったのですが、梅雨も明け久し振りの好天で採集条件が整ったのか、7月26日に初めて本種を発見しました。3年連続同一パターンで目撃・採集しており、偶然とは考えられず、倉ケ岳の本種は定着して発生しているのではないのでしょうか。

2) クロコムラサキ

1994年7月29日	辰口町手取川河川敷川北大橋付近	1♂採集
------------	-----------------	------

カワヤナギ上で1♂を採集しました。クロコムラサキは関東地区では極めて稀で、少年時代からの憧れの蝶でした。昭和19年(1944年)7月23日に奥日光竜頭の瀧近くで1♂を採集して以来、50余年振りでした。その後天狗橋～辰の口橋間兩岸の河川敷カワヤナギを探索したのですが、普通のコムラサキばかりで、クロコムラサキは見当りませんでした。

《まきはら ごろう 〒924 松任市山島台3-44》

0	短 報 30				0
ツマグロヒョウモン	1995年8月27日	金沢市キゴ山	1頭目撃	澤田 博	
ベニヒガ	1995年9月2日	白峰村釈迦林道	1♀目撃	松井正人	
0					0

夏季にメスグロヒョウモン多数を観察

松井 正 人

メスグロヒョウモンは、近年金沢市以南に記録はほとんど無く、もっぱら能登地方で観察されていた。しかし、ほとんどが秋季のもので夏季の観察例は少なく、しかも早となると数える程しか無かった。今回、夏季に多数の本種♂♀を観察することができたので報告する。

能登地方の赤住は、山が海岸近くまで迫り、海岸沿いに点在する小さな水田は、まるでくさびのように形で山林に食い込んでいる。松林と雑木林に挟まれた水田のひとつは、近年放棄されたのかガマやセリに占領されていた。セリは花盛りで、この白い花にメスグロヒョウモン多数が訪花していた。水田脇にはアカメガシワも咲いていたが、訪花しているチョウはいなかった。

1995年7月23日 志賀町赤住 2♂2♀採集多♂♀目撃 松井正人

今年の梅雨は豪雨が続き、気温が上がらず冷夏になると騒がれていたが、この23日から一転して晴れ上がり猛暑となった。長雨で餌がとれずにいたメスグロヒョウモンは、夏眠を前に栄養補給していたのだろうか。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリの野外成虫採集記録

高 田 兼 太

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ(*Molorchus nitidus* OBIKA) は、石川県において多数の材採集例が報告されているが、野外成虫の採集例は報告されていないものと思われる。

筆者は、カエデの花のスイーピングにより本種を採集しているのでここに記録しておく。

1993年4月30日 金沢市見上峠 1頭 高田兼太

《参考文献》

井村正行, 1987, ホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集, 翔, (65):13.

井村正行, 1995, 石川県のカミキリムシ科(最終回), 翔, (114):2.

《たかだ けんた 〒920-11 金沢市若松町警備野3番地 山本和男方》

「釈迦林道でライトトラップ

八月五日、総勢十六人により、釈迦林道でライトトラップ。点燈と同時に始まった酒盛りのため、何が飛来したのか全然わかりません。翌日は、流しソーメン、温泉、焼き肉と虫採りする暇もなく、盛りだくさんのメニューを消化。

「一泊二日の昆虫採集教室

松井、澤田の二氏は、キゴ山少年の家で昆虫採集教室を開催。「採ることに意味がある」と自分達も楽しむべく、各種採集法を実践。ライトトラップと夜の糖密トラップ巡りは人気があり、怖い話とセツトにすると、夜はすぐにふけていくのであった。

「全滅したホソオチヨウ

葉の裏一杯にあった卵が、孵化した途端、あれよあれよと死んでいった。とにかく食いつきが悪い。高温にも弱いらしい、朝孵化した幼虫が、夜にはもう干乾びていた。

「北海道のオオトラカミキリ

江崎氏、北海道でオオトラを採集。採集時は平然としていた氏ではあったが、時が経つに連れ徐々に実感が湧いてきたらしく、「二十六ミリは大きい」とか「日本を代表する珍品」とか大はしゃぎ。

「釈迦林道二泊三日の溝掃除

溝掃除に定評のある上田氏、ライトトラップとセツトで釈迦林道全線の溝掃除を計画。予定は二泊三日だったが、溝掃除は二日で終了し、2度目のライトもそこそこに帰って行った。

「扉へ、扉へとデリカは走る

松本は扉峠、ここに一本のトウヒがある。樹勢の衰えは感じられないが、カミキリの飛来がすこぶる良い。世に言う御神木で、時期にはトビラエンシスが確実に採集できる。笑いが止まらない井村会長、片道四時間何のその、夜駆け朝帰りを続けている。

「何のための合併号か

週刊誌等で正月とか、五月の連休に合併号が出る。号数が合併され、「来週はお休みします」と読者に知らせている。これが何の前ぶれも無く、休んだ後に合併号が出ると読者は怒りだすだろう。似たような事がないだろうか。一年間会誌が送られて来ず、翌年になって号数だけが重ねられた会誌が送られて来ることが。

「石川県産蛾類仮目録

県内に産する蛾類二千六十種のリストができた。昆虫総目録の基礎資料として、また県内未記録種発見の手がかりとして富沢 章氏がまとめたもので、調査が進めば五十種以上は確実に増えるらしい。

「松本和馬氏、釈迦道に遊ぶ

和馬氏と言えば、初代編集長で、氏がいないければ「翔」は存在しなかっただろう。今は虫プロで、金沢へは仕事でやってきたが、そこは虫好き

同志、江崎氏が釈迦道採集をセツトし、なつかしの地で採集にいそしむのだった。

「井村氏、またまた仕事地獄

九月は上半期の決算月、遅れを一挙解消すべく、休日も返上し日夜仕事に励む会長であつた。それを知ってか知らずか、ジャンジャン誘いの電話をかけるのであった。

「例会の記録

八月三日(木)八時から城南管工二階にて開催。

たくさん採れたカワラゴミ、今から採れるホソハンミョウ、ニューらしいオオズナガゴミ、ピカピカギラギラのタマムシ、やけにおおきなクロカタビロ、叩いて落とす会津のキマルリ、谷川を下ってくるベニヒカゲ、等の話をしながら、五日の燈火採集の打合せを行なった。

参加は生田、井村、松井、中西、山岸、細沼、吉村、野中、牧原、富沢、高田の十一人。野中、牧原、富沢、高田はTEL参加。

会員の動き・しゃぼの動き

超々ファインプレーで故障再び右足を故障した江崎氏、虫採りどころか車も運転できず、職場で寝泊まりするありさま。さぞや難儀していると思いきや、いたせりつくせりのお姫様がいたのでした。

一家そろってカラフトだ！忙しくて日曜も休めないとぼやいていた井村会長だったが、水曜日には一家総出で長野へ出かけた。現地では家族をほっぽって、ひとり林内をさまよったが、カラフトホソコバネは採れなかった。

カラフトへは行ったけれど昆虫調査団の一員として、樺太へ渡った横山氏、オサやゲンゴロウが目的にも係わらず、大勢を占める蝶屋に翻弄

され思うように採集できず。草原性の蝶だけは、しっかり採集できたらしい。

タカネヒカゲがいつぱい竹谷氏、家族で上高地から蝶、常念へ。下山には一の俣を予定していたが、荒れていて下れない。引き返すこともできず、一の沢から高いタクシー代を払って上高地に戻ったが、オオイチやタカネヒカゲをたくさん撮ってきた。

行ってきました台湾虫の旅五月の連休が7月末までズレ込んだ細沼氏、とりあえず台湾へ飛び、五十種程の蝶を採ってきた。

あこがれのモンタイマイ八重山行が恒例になった松田氏、今年も七月三十一日に

現地入り。今年の目当ては、モンタイマイで、与那国では五十頭以上も採れている。与那国ホンダの西條さんに話を聞けば、アカネアゲハやジャノメタテハモドキも採れている。ポイントで待てども目当ては現われず、どんどん日が過ぎて行く。全日程を与那国で使ったが、お目当ては撮れなかった。

思い込みから違った紹介「蝶談会の会員で」と話したすと、人は蝶屋だと思っで聞き始め、次に「甲虫を」と続けても、蝶屋の印象が強いようだ。あとで彼の知り合いから「蝶屋の」と言われ、びっくりした事がある。そこで「甲虫を」とから話した事にしてている。

ラオス・ラオス・ラオス指田氏、八月一日よりラオスへ三週間。ラオス行もこれで三回目、滞在日数も段々増えている。いったい何が、こゝうも引き付けるのだろうか。

翔

NO. 116

1995年10月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



金沢市自然史研究会 第116号

目次 (116号)

澤田 博：金沢市依大池周辺のトンボ相	1
矢田新平・石川卓弥：西表島、石垣島で採集した蝶	3
松井正人：石川県のジャノメチョウ4	5
澤田 博：金沢市西念でクマゼミの声を聞く	8
牧原悟郎：北 陸 の 蝶 2 題	9
松井正人：夏季にメスグロヒョウモン多数を観察	10
高田兼太：ホソツヤヒゲナガコバネカミキリの野外成虫採集記録	10
編集 部：会員の動き・しゃばの動き	12